# ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査による中学２年生の検診システムの構築

小野内科胃腸科クリニック[1)]　半田クリニック[2)]
小野和彦[1)]　半田和広[2)]

【目的】ヘリコバクター・ピロリ感染と胃癌の関係が明らかとなり、感染者の除菌が推奨されるようになった。また、最近では若年者における除菌の試みがなされている。我々は以前から当市で行われている中学２年生時の貧血検査を利用し、ヘリコバクター・ピロリ抗体価の検査を追加する事で受診者及び関係者の負担をあまり増やす事なく感染者を拾い上げ、除菌を勧めるシステムを構築したので報告する。

【方法】対象は当市の中学２年生で、検査の実施にあたり説明文書を保護者に配布し、消化器病専門医の除菌担当医２人が学校での保護者会において説明し、保護者からの疑問、意見等は文書で受け付け、それに対する回答を文書にして配布し、同意を得られた希望者にヘリコバクター・ピロリ抗体価検査を実施した。中学２年生２３６人中希望者は２３３人で参加率は９８.７％であった。抗体価が３．０未満は陰性、１０.０以上は陽性、３.０～９.９は偽陰性の可能性があるので判定保留として呼気テストを実施し、陽性の場合は感染者として除菌治療を勧めた。尚、市との事前の交渉で呼気テスト及び除菌治療には市から費用の半額補助の了解を得ていた。

【結果】抗体価陽性者１３名、判定保留者４人中１人が呼気テスト陽性であった。合計感染者数は１４人でヘリコバクター・ピロリ感染率は６.０％であった。ヘリコバクター・ピロリに感染していると判断された生徒の除菌参加率は１００％、１次除菌成功者１１人、２次除菌成功者１人、未判定者１名、除菌不成功者１人で現時点での除菌成功者は１２人、除菌成功率は８６％、

【考察】対象生徒の１００％に近い参加が得られたのは学校の養護教諭部会の理解と協力があったからであり、市から検査及び除菌費用の半額補助が実現したのも養護教諭部会が市に要望した結果である。この検診システムが成功したのは市の関係各位と学校側、そして当市の医師会の方々の理解と協力があった

からと考える。